



原発再稼働の前に

原発のストレステスト

原発の再稼働の前に「ストレステスト」を行うと云う。色々な条件を設定して、シミュレーションをして、事故の確率はこれほど低いからご安心を」と云う計画だ。

確率が低いからと云って安心できない

「起こる筈のない大津波」で福島原発が被害を受けたことを考えると、確率が低くても安心はできない。そもそも、シミュレーションで、これでは危ない」となれば計算条件を変え、「これなら大丈夫」と云う結果も出せる。「すべて大丈夫」という結果だと疑われるし、「すべてダメ」も困る。「一部ダメで、残りは大丈夫」となるように計

算条件を設定することもできる。

事故った時の対処

問題は、起こるはずのない事故が起こった時、電力会社が全責任をとり、政府も支援して、被災者、避難民を救済することではないか？「自主避難せよ」ではない。「避難場所を用意したから避難願います」「仕事ができなくて減った所得は元の所に戻って仕事ができるまで補償します」と云うべきでは？

護民官を

セシウム汚染事件で肉牛の価格が下がった。例えば、通常より2割下がったから、2割分東電が補償せよ」と裁定を下し、被害を受けた農民を助ける「護民官」を設け

るべきでは？

今福島で被害を受けている被災者、避難民を救済し生活を保障すること。それがなければ、いくらストレステスト

で安全と云われても誰も再稼働にOKとは云えないと思います。皆さんはどう思われますか？

無農薬栽培は、虫との戦い

日除けに植えたブドウにとりつく、蒼黄金虫との闘いを日曜ジジ通信33号(昨年8月29日)に書きました。今年は蒼黄金虫の前に青虫というか毛虫というか、虫がとりつきました。

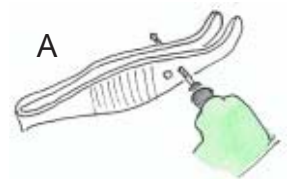
地面の糞を見てじつと下から見上げます。保護色でも青虫は色が違うので、それを見つけて脚立に上りピンセット



でつまみ取ります。洗剤を溶かした水に落とすと気門に水が入り呼吸できなくなつてあの世界です。でも脚立の上り下りは大変です。上がると見失つたりします。そこで下の図のようなピンセット付き虫取り棒を開発しました。まず、ピンセットにA図のようにドリ



ルで穴を開けます。B図のようにワイヤーを通して、端にアルミの管をかぶせてペンチでつぶします。B図でワイヤーを左に引っ張るとピンセットが閉まります。すると上の図のように青虫を捕まえられるのです。



七月五日に75匹。六日41匹。七日に15匹。八日には2匹。で、ようやく撲滅。地面を掃いても糞が無くなりました。しかし、その頃から蒼黄金虫との闘いが始まりました。

